

令和元年度

倉吉市教育行政の点検及び評価

倉吉市教育委員会

令和2年5月

目 次

はじめに	1
1 評価・公表について	2
2 評価に当たって	3
3 主な重点施策の成果	3
4 平成31年度教育方針と重点施策	5
5 重点施策の実績と評価	6
・倉吉市教育の創造	6
・学力向上の推進	7
・豊かな心とたくましい体の育成	8
・倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成	9
・家庭・地域と連携した開かれた学校づくり	9
・よりよい倉吉教育を目指して	10
・給食の充実、食育の推進	10
・地域力を育む社会教育の推進	11
・支えあう人づくり・輝くまちづくり	12
・公民館活動の推進	13
・体育・スポーツの振興	14
・文化財の保存、活用、伝承	16
・親しみ学ぶ機会の提供できる博物館	17
・豊かな心を育む図書館づくりの推進	17
6 教育委員会の主な動向	18
(1) 教育長、教育委員の在任状況	18
(2) 教育委員会の会議	18
(3) 教育委員会の開催状況	18
(4) 総合教育会議の開催状況	20
(5) 計画訪問・意見交換会・諸行事への参加	20

はじめに

平成19年6月に「教育改革関連3法」の改正が行われ、その中で、教育委員会の責任体制の明確化や体制の充実に関する規定の整備を図るため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成20年4月から教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表をしなければならないとされました。

倉吉市教育委員会では、本市における教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、平成23年に“くらしよし”ふるさとビジョン（第11次倉吉市総合計画）と連携した「倉吉市教育振興基本計画」を策定し、将来的な方向性や今後5年間（平成23年度～平成27年度）に重点的に取り組むべき施策を示すとともに、各年度の「倉吉市の教育方針と重点施策」と「倉吉市教育行政の点検及び評価」により進行管理をし、着実な計画の推進に努めてきました。その結果、倉吉市の教育理念「豊かな心を持ち、個性を發揮する人づくり」の実現を図るための様々な施策を展開することができました。

そして、今後、一層進む少子高齢化社会に対応する教育行政をするために、「倉吉市教育振興基本計画」の第二期（平成28年度～平成32年度）を策定いたしました。

倉吉市教育委員会としては、特に「豊かな心を持ち、個性を發揮する人づくりの推進」「魅力ある歴史・文化資源を活用した文化の振興」を政策に掲げ、「生涯学習の推進」「義務教育の充実」「文化財の保護と活用」「体育・スポーツの振興」などに重点をおきながら、誰もがいつまでも「学び続ける人づくり」を目指し「みんなが生きる喜び」をもてるような取り組みを進めていかなければなりません。

そのためには、自ら設定した教育に関する方針や施策の実現を図るために、事業等の取り組み状況を日々点検・評価を行いながら改善を図り、より充実したものにしていくことが必要です。

そこで、市民から信頼される教育行政を目指し、教育委員会や事務局の役割、事業の進捗状況等について説明責任を果たすため、重点的に取り組んだ14項目の点検・評価を行い、その結果を公表し、効果的な教育行政の推進を図るものです。そのほか、教育委員会の会議の開催などの活動状況を記載し、ここに報告書としてまとめました。

※参照

◎地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

1 評価・公表について

(1) 実施時期

点検及び評価は毎年度行うこととされており、当該年度における取り組み状況の点検・評価を年度内に行う。

(2) 評価の方法

教育委員会全般にわたり適正な教育行政の点検・評価や総合計画に掲げた目標水準の達成状況、施策の進捗状況との整合性を図りながら評価項目を策定し、評価にあたっては、審議会等に諮り、自己評価、外部評価を行う。

(3) 議会への報告

報告書を作成し議会に提出しなければならないこととされており、6月市議会に報告を行う。

(4) 一般への公表

課題を共有化しその解決を図るために広く意見を求め、より適正な評価に努めるために評価結果を市民に公表する。

(5) 各種教育関係機関の評価結果の活用

学校評価、社会教育団体、文化団体、スポーツ団体の評価結果の効果的な活用を行う。

(6) 外部の有識者等の知見の活用

○点検・評価・公表の流れ

教育委員会事務局の組織マネジメント(PDCA)及び業務評価システムの確立

P計画 → D実施 → C検証(中間評価) → A実行 → C評価(自己・最終)

4月 倉吉市の教育方針と重点施策を基にした各課の基本方針と実施計画を策定する



9月 重点施策の実施計画の進捗状況のチェックを中間評価とする。



2月 重点施策の実施状況を各課で自己評価をする。



3月 各課の担当する審議会等に自己評価結果を提出し、外部評価を最終評価とする。



4月 教育委員会定例会で業務評価として協議し、市議会に提出し、6月市議会に報告する。

市民へは、リーフレット、ウェブページ、市の広報誌等を活用して公表する。

2 評価に当たって

第11次倉吉市総合計画における、施策と教育委員会事務局で取り組んでいる施策との整合性を図りながら総合的な観点での評価に心がけた。評価に当たっては、令和元年度各事業の施策に示した目標に向かって、取り組むべき事業ごとに「目標」「実績」「成果」「課題」の観点に分けて行うこととした。また、評価項目については特に焦点化をはかり点検・評価の重点化を図ることとした。

○ 評価基準

平成24年度評価より評価基準を見直し、目標を上回る成果が上がった場合をA評価とした。目標値達成率を目安に、「成果」欄には、実績によって得られた成果を中心に評価を行った。

成果	判断基準
A	当初の目的・目標を上回る成果が上がった
B	当初の目的・目標を達成した
C	当初の目的・目標を下回る成果に止まった
D	当初の目的・目標を大きく下回った

3 主な重点施策の成果

区分 施策と担当課	施策数	成果				総合
		A 目的・目標を上回る	B 目的・目標を達成	C 一部の進展に止まった	D 目的・目標を下回る	
倉吉市教育の創造						
教育総務課	3		3			B
学校教育課	1		1			
学力向上の推進						
学校教育課	4		4			B
豊かな心の育成とたくましい体の育成						
学校教育課	4	1	2	1		B
倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成						
学校教育課	4	2	2			B
家庭・地域と連携した開かれた学校づくり						
学校教育課	3	2	1			A
よりよい倉吉教育を目指して						
教育総務課	1		1			B
学校教育課	2		2			
給食の充実、食育の推進						
学校給食センター	3	2	1			A

施策と担当課	施策数	A	B	C	D	総合
地域力を育む社会教育の推進						
生涯学習課	2	1	1			B
支えあう人づくり・輝くまちづくり						
生涯学習課	3		3			B
公民館活動の推進						
生涯学習課	4	2	2			A
体育・スポーツの振興						
生涯学習課	4		3	1		B
文化財の保存、活用、伝承						
文化財課	3	1	2			A
親しみ学ぶ機会の提供できる博物館						
倉吉博物館	3	3				A
豊かな心を育む図書館づくりの推進						
市立図書館	3	1	2			B
計	47	15	30	2		

平成31年度 倉吉市の教育方針と重点施策

～行きたい学校・
帰りたい家庭・
住みたい地域～

教育基本法

- ・人格の完成と、社会の形成者としての国民の育成
- 学校教育法
- 社会教育法
- 図書館法
- 文化財保護法
- 博物館法

【教育理念】

豊かな心を持ち、個性を発揮する人づくり

【教育目標】

- ・幅広い知識を身に付け、豊かな心を培い、健やかな体を養う。
- ・個性を尊重し、創造性を培い、自律性・自主性を養う。
- ・社会の一員として、参画し寄与する態度を養う。
- ・自然を大切にし、伝統と文化を尊重する態度を養う。
- ・郷土を愛し、他人や他の地域を尊重する態度を養う。

“くらしよし”ふるさとビジョン

【将来都市像】

愛着と誇り 未来いきいき
みんなでつくる倉吉

【教育・文化・コミュニティ】

活力に満ち、豊かな心と文化が息づくまち
倉吉市まち・ひと・しごと創生総合戦略

倉吉市教育の創造

- ・第2期倉吉市教育振興基本計画の進ちょく管理（5年計画の4年目）・働き方改革の推進
- ・倉吉市教育委員会の活性化（教育に関する事務の点検・評価の推進、総合教育会議、学校・公民館訪問）
- ・「倉吉市立小学校適正配置推進計画」に基づく学校再編の推進（各地区協議会での課題の明確化とその対応）
- ・教育環境の整備充実（小中学校エアコン設置、小鴨小用地購入、小中学校教育用LANシステム、教材備品整備）

学校教育基本方針

豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成
～自ら学び、たくましく生きる～

社会教育基本方針

倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進
～いつでも どこでも だれでも とともに学び 地域力を育む～

学力向上の推進

- ・学力向上推進支援（小・中連携教育の推進、合同研修会）
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（教職員の指導力向上）
- ・細やかな指導を行う体制づくり（少人数学級・教員加配）
- ・小学校外国語教科化・プログラミング教育の対応（ALT配置、ICT指導員の活用（研修会））

地域力を育む社会教育の推進

- ・学習内容の充実、学習成果の還元（人材銀行、生涯学習講座）
- ・専門・実践的な高等教育の提供（鳥大、看護大・短大等連携）
- ・成人教育の推進（成人式実行委員会等）

豊かな心とたくましい体の育成

- ・道徳教育・人権教育の充実
- ・特別活動の充実（乳幼児ふれあい事業）
- ・キャリア教育の充実（職場体験）
- ・いじめを許さない学校体制づくり
- ・問題行動、不登校の未然防止・早期対応（合同研修会）
- ・相談体制の充実（教育心理士育成講座）
- ・読書活動の推進
- ・学校体育、健康教育及び学校保健、安全教育の充実

支えあう人づくり・輝くまちづくり

- ・地域を支える人づくりの推進（中高生の活躍、地域発掘）
- ・青少年の健全育成と青少年団体の育成支援
- ・次世代育成のための体験活動の推進（放課後子ども教室）

公民館活動の推進

- ・学習の質の向上と学習成果の活用（地域連携、研究部会）
- ・人づくり・地域づくりの推進（公民館研究指定事業）
- ・安全安心な施設整備（成徳・明倫・北谷空調他）

倉吉に誇りと愛着を持つ子どもの育成

- ・倉吉独自の教材の活用（くらしよし風土記等の活用）
- ・地域の人・もの・ことがらに触れる教育活動の推進
- ・倉吉らしさを取り入れた教育活動の実施（土曜授業）

体育・スポーツの振興

- ・市民のスポーツ活動支援（市民体育大会、全国大会補助他）
- ・体育施設の整備充実（野球場アポロド・スポーツセンター体育館照明他）
- ・大規模スポーツ大会支援（駅伝、相撲他）

家庭・地域と連携した開かれた学校づくり

- ・地域学校委員会の充実 地域学校協働活動推進事業
- ・学校支援ボランティアの拡充

有形・無形の歴史的な資産の保存と活用

- ・伝建地区の災害復旧・保護（修理・修景事業）
- ・指定文化財の整備・保護（小川家・桑田家・大日寺古墓）
- ・埋蔵文化財の発掘調査（大谷工業団地・両長谷ほか）

よりよい倉吉教育をめざして

- ・特別支援教育の充実（元気はつらつプラン）
- ・幼保小連携の充実（教育課程の接続）
- ・家庭教育に関する就学前からの継続的な保護者啓発・支援
- ・教育助成の充実（就学援助事業の周知と適切な執行）

親しみ学ぶ機会の提供できる博物館

- ・郷土の文化芸術、伝統文化を学べる場の提供
- ・トリエンナーレ美術賞（菅柄彦大賞展）・金沢翔子書展
- ・地域の文化資源活用（博物館講座の開催、ウォッチングガイド作成）

学校給食の充実、食育の推進

- ・栄養教諭等による食に関する指導、食物アレルギー対応の推進、衛生管理の徹底、施設・設備の維持管理

豊かな心を育む図書館づくりの推進

- ・図書館資料の収集提供、英語学習・中高校生等の利用促進
- ・読書活動の推進（作家講演会等）
- ・山上憶良短歌募集（全国からの募集）

5 重点施策の実績と評価

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価
倉吉市教育の創造	第2期倉吉市教育振興基本計画の進捗管理(5年計画の4年目)	1 ・基本計画に基づく重点施策実施計画の策定 ・教育に関する事務の点検・評価の推進	教育総務	・第3期基本計画策定会議を6回開催し、第2期基本計画に基づく事業の振り返りと第3期基本計画策定に向けて協議を行い骨子案を作成。3月教育委員会に提出した。	B		○各施策について、概ね当初の計画どおり実施することができた。 ○小学校適正配置協議会を立ち上げ、協議を進めた。 *成果指標 A：小学校適正配置協議会での委員の意見を踏まえながら、適正配置についての修正案を複数提示するとともに、各地区での説明を行い、理解を図る。 B：小学校適正配置協議会を開催し、委員の意見を踏まえながら、適正配置についての修正案を複数作成する。 C：小学校適正配置協議会を開催するが、適正配置について修正案を提示するに至らない。 ○教育施設の整備については、概ね計画どおりに進めることができた。
	倉吉市教育委員会の活性化	2 ・倉吉市教育の方針の明示 ・住民の意向や教育現場の実情の把握 ・総合教育会議の充実 ・教育委員の活動の顕在化	教育総務	学校計画訪問、諸行事へ積極的に参加した。また、計6回のリレーコラムや教育委員会定例会、市長との意見交換の場である教育総合会議を2回開催し、その会議録等をホームページに掲載し、情報発信に努めた。	B		
	「倉吉市立小・中学校の適正配置等について」に基づく学校再編の推進	3 ・適正配置の課題の整理と各地域・関係団体との協議の実施	学校教育	・倉吉市立小学校適正配置協議会を立ち上げ、計6回の会の開催と2校の学校視察を行った。委員の意見を踏まえながら、複数の修正案を提示した。 ・各協議会の概要をHPにアップすると共に、各自治公民館より班回覧することで、市全体に周知した。	B	B	
	学校教育施設・教育施設の整備運営	4 ・ブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金事業 ・小鴨小学校学校用地購入、登記 ・長寿命化計画策定に係る調査 ・ICT機器整備(PC教室等教育用LANシステム含む)整備計画の策定ほか	教育総務	・ブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金事業については、計画のとおり完了した。 ・小鴨小学校用地購入については、6月に所有権移転登記を完了し、10月に駐車場整備を完了。 ・長寿命化計画策定については、R2年度の施設調査に必要な各施設情報を整理し、関係各課と情報共有をした。 ・ICT機器整備については、計画策定検討会議を3回開催し、令和5年度までの整備計画を策定することができた。 ・施設修繕については、予算の範囲内において、緊急性の高いものから改修等を行った。	B		

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価
豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成	2 学力向上の推進	1 ・学力向上推進の支援（小・中連携教育の推進、合同研修会）	学校教育	・中学校区で講師を招聘し、研究授業及び研究会を実施したり、小中連携の推進のための協議をしている。	B	B	<p>○全国学力・学習状況調査においては、小学校では国語、算数とも全学校で全国平均をやや上回った。中学校では国語の「読むこと」、数学の「関数」、英語の「聞くこと」「書くこと」において全国をやや下回っており、課題である。</p> <p>*成果指標 A：全国平均より3ポイント以上上回る B：全国平均と概ね同程度 C：全国平均より3ポイント以上下回る</p> <p>○小学校においては、積極的に県事業を受け、全国学力・学習状況調査結果の分析から、授業改善の視点を明確にした取組を進めている。</p> <p>○「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えた児童生徒の割合</p> <p>*成果指標 A：80%以上 B：60%以上80%未満 C：60%未満</p> <p>○成徳、明倫、灘手小学校に英語専科教員を1名配置（兼務）し、英語の授業を実施している。県の事業を活用するなどし、配置校だけでなく市内小中学校の先生方に研修の機会を持つことができた。</p> <p>*成果指標 A：子どもの意識（好き）90%以上 B：子どもの意識（好き）85%以上 C：子どもの意識（好き）85%より低い</p>
		2 ・わかる授業のための授業改善（教職員の指導力の向上）	学校教育	・全国学力・学習状況調査をはじめNRTやCRTなど各種調査の結果の分析から、授業改善の視点を明確にして日々の実践に活かす取組が進められた。 ・要請訪問指導助言13回	B		
		3 ・細やかな指導を行うための体制づくり（少人数学級・教員加配）	学校教育	・前年度の各学校の要望に基づき、適切に加配教員を配置できた。 ・学校計画訪問等を活用し、活用状況を聴き取っている。	B		
		4 小学校外国語教科化の対応（小学校・中学校）	学校教育	・昨年度に続き、小学校に外国語専科教員を配置し、明倫小・成徳小・灘手小の3年生から6年生までの授業を担当した。積極的に授業公開をし、また県の事業を活用し、配置校のみならず、市内小中学校の先生方に研修の機会を提供した。 ・ALTが1つの小学校に集結し、授業する行事(TKA)を実施した。児童に好評で、英語に親しむよい機会となるため、継続していきたい。	B		

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価
豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成	3 豊かな心とたくましい体の育成	1 ・人権教育の充実 (育てたい資質・能力を明確にした実践)	学校教育	河北小の取組を人権主任者会で報告してもらい、各校への還元を図った。 教科としての特性を活かしながら、身につけさせたい資質・能力をまんべんなく年間計画に取り入れることを確認した。	B		*成果指標 A：年間指導計画を見直すとともに、身に付けるべき資質・能力を明確にした教育活動を教育課程全体を通して確実にを行っている。 B：年間指導計画を見直すとともに、身に付けるべき資質・能力を明確にした教育活動を行っている。 C：年間指導計画を見直しが十分に行われていない。
		2 ・道徳教育・体験活動の充実(乳幼児ふれあい事業)	学校教育	・小学校13校が年間2回の乳幼児とのふれあい会を児童センター等と連携して実施した。中学校5校は、家庭科の学習の中で保育体験を実施した。乳幼児の成長に驚きと喜びを感じ、自分も大切に守り育てられてきたことを実感することができた。	A		○小中学生と乳幼児とのふれあい事業は、各校の取組として定着し、児童生徒の自己有用感の向上に成果を上げている。 ○中学校「特別の教科道徳」については、特に混乱もなく学校現場に導入することができた。 *成果指標 A：円滑に実施できた 5校/5校 B：円滑に実施できた 3校/5校 C：円滑に実施できた 2校以下
		3 ・相談体制の充実、いじめや問題行動の未然防止、(倉吉市いじめ防止基本方針の徹底、不登校対策)	学校教育	・スクールソーシャルワーカーが、各校の定例生徒指導委員会に出席するなどし、学校との連携を高め、不登校の未然予防や早期対応を進めた。また、児童生徒を取り巻く環境をよく理解し、家庭訪問などはたつきかけを継続することで難しいケースが向上することがあった。 ・長期欠席児童生徒数小学校35名(前年度比+7)、中学校79名(前年度比+19)12月末 ・子ども支援センター入級児童生徒13名 ・未然防止ができるよう、引き続き学校や関係機関と連携していきたい。	C	B	○不登校について、各校とも未然防止や早期対応に努めている。ICT活用自宅学習支援、アウトリーチ型支援など新たな取り組みも実施しているが、出現率は増加傾向である。少数ではあるが、学校復帰した児童生徒もいる。 *成果指標 A：児童生徒数10%減 B：児童生徒数5%減 C：5%より低い減少
		4 ・たくましい体の育成(体育、健康教育、学校保健の充実、安全教育の充実)	学校教育	・喫煙防止教育を小学校9校、中学校4校実施。 ・性教育講座中学校5校実施。 ・県体力運動能力調査では、小学生の握力、中学生の長座体前屈、反復横跳びなどの平均値が県平均より低かった。 ・中学校の運動部活動ではのべ39名が中国大会、17名が全国大会へ出場した。 ・各関係機関と連携のもと、倉吉市通学路の合同点検を行い、概ね改善に向けての取組ができた。	B		○体力運動能力調査では、全体としてはB評価であるが、学年、男女別では課題がある。 *成果指標 A～C判定が80%に達する学年(男女別)の割合 A：全小中学校の12/18以上 B：全小中学校の7～11/18 C：全小中学校の6/18以下

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価
豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成	4 倉吉に誇りと愛着をもつ子どもの育成	1	学校教育	・倉吉独自の教材づくりの推進（くらよし風土記の活用）	すべての中学校で倉吉検定を実施できた。	B	<p>○倉吉に誇りと愛着をもつ子どもの育成のために、土曜授業等において中学校版「くらよし風土記」、小学校版「わたしたちの倉吉」の活用を行った。</p> <p>○各小中学校がそれぞれの教育課程にあわせて、市内にある多くの施設等を見学し、施設の役割や働く人たちの思いを学んだ。</p> <p>○令和元年度、土曜授業の実施4回。倉吉市立小中学校で実施。</p> <p>*成果指標 ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と答えた児童生徒の割合</p> <p>*成果指標 A：80%以上 B：60%以上80%未満 C：60%未満</p> <p>○地域と連携した取組を多く行っているが、取組を通してより地域や社会に何ができるか考えさせることが必要である。</p>
		2	学校教育	・地域の人・もの・ことがらに触れる教育活動の推進	・各小中学校がそれぞれの教育課程にあわせて、市内にある多くの施設等を見学し、施設の役割や働く人たちの思いを学んでいる。体験学習も取り入れられており、児童生徒がふるさと倉吉への思いを深め、関心を高める一助となっている。	A	
		3	学校教育	・土曜授業の実施（ふるさと学習を中心とした地域との共催）	・各学校が創意工夫をして地域・保護者と協働した活動を展開していた。「ふるさと学習」を意識した取組となるよう周知し、ふるさとについて改めて知ったり考えたりする機会となった。	A	
		4	学校教育	・倉吉らしさを取り入れた教育活動の実施	今年度で11年目となり、学校が主体となって地域を交えた取組が定着してきた。今年度は、中学校区での共通実践に取り組むとともに、地域学校委員と児童生徒が協議する場を設け、地域とのつながりを発展させるようにした。	B	
豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成	5 家庭・地域と連携した開かれた学校づくり	1	学校教育	・開かれた学校づくりの推進（学校評価の効果的な活用）	・概ね計画通りに実施した。学校のウェブページも児童生徒の活動の様子が保護者や地域の方に発信している。	A	<p>○学校公開を市内小中学校で6月に実施した。2学期については、各校が独自に実施した。</p> <p>*成果指標： 児童生徒の活動の様子をウェブページで公表 A：全小中学校 B：12校/18校以上の小中学校が公表 C：11校以下</p> <p>○学校地域連携の取組は、各地域の実情を踏まえ充実した取組がなされるようになった。一方で、地域からの支援だけでなく地域への貢献といった学校の地域参画も必要である。</p> <p>*成果指標 A：各地区行事の参加率80%以上 B：各地区行事の参加率60%以上 C：各地区行事の参加率60%より低い</p>
		2	学校教育	学校地域連携の取り組み推進（地域未来塾）	・13地区で「教育を考える会」を実施。各地区において子どもの成長を考えた内容のものが実施され、熱心に協議等が行われた。参加者の固定化が課題である。	B	
		3	学校教育	・学校運営に参画する体制づくり（地域学校委員会の充実）	・各学校の地域学校委員会が地域の特色を生かして活動し、地域と学校との連携がより強化されてきた。	A	

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価	
豊かな心とたくましく生きる力をもつ子どもの育成	6	よりよい倉吉教育を目指して	1	・特別支援教育の充実（児童生徒を支える学校体制づくり）	学校教育	・本年度より、就学指導委員会で付帯事項のある児童生徒について、適切な学びが提供されているか確認助言を行った。 ・MIM（言語多層指導モデル）を各校の取組とし、必要に応じて実施方法を指導。全13校が教材を活用、データ活用は7校だった。	B	○自立活動の研修会を実施、また、子ども家庭課との共催で感覚統合基本研修を行い、現場の特別支援学級担任、小学校1年生担任のニーズに合った研修を実施することができた。 ○本年度より各校での取組としたMIM（言語多層指導モデル）は、各小学校で必要に応じた取組が行われた。 *成果指標 A：MIM教材の活用とデータ利用 全小学校 B：MIM教材の活用とデータ利用 7校以上 C：MIM教材の活用とデータ利用 6校以下 ○核家族化、少子化、地域における地縁的なつながりの希薄化など、家庭や家族を取り巻く社会状況の変化の中で、家庭の教育力の低下が課題として残る。 ○適切に交付事務を執行することができた。
			2	家庭教育の充実（研修機会の拡大）	学校教育	・小P連・中P連との共催により教育講演会を開催して5年目となった。アンガーマネジメント講師稲田氏を迎え、加者150名を超える研修会となり大好評であった。	B	
			3	・教育助成の充実（就学援助事業の周知と適切な執行）	教育総務	就学援助については、予定どおり支給できた。新入学学用品費を2月末頃に支給した。特別支援教育就学奨励費についても計画的に支給した。新型コロナウイルス対策で臨時休校になったため急な変更手続きにも対応することができた。	B	
	7	学校給食の充実、食育の推進	1	栄養教諭等による食に関する指導	給食センター	給食主任や学級担任等と連携しながら、望ましい食習慣の定着につながるよう、栄養教諭・学校栄養職員による全学級訪問指導を186回実施し、小中学校の学校給食残食率が前年度の2.4%から2.1%に減少するなど効果があった。 「親子で学ぶ食の教室」を学校給食センターで18回実施し、保護者の参加率が90%あった。また、保護者アンケートでは、食についての意識が変わったとの意見が多く寄せられた。 市長、教育委員を囲んでの会食会を、献立作品で最優秀賞・優秀賞を受賞した児童生徒のクラスを会場に表彰式とセットで開催した。	A	○小中学校9年間を通じて計画的な指導を行うことにより、児童生徒の「食に対する理解と関心」を深めることができた。 ○調理業務の衛生管理等を徹底することで、安全・安心な学校給食の提供につなげることができた。 ○児童生徒全員を対象とした食物アレルギー用献立表や、学校給食センターで食物アレルギー対応をしている児童生徒の個別献立表で情報提供を行い、学校教育課・学校現場・保護者と連携しながら食物アレルギー事故の防止を図ることができた。
			2	学校給食衛生管理基準に基づいた衛生管理の徹底	給食センター	学校給食衛生管理基準に基づく、調理業務の衛生管理等について、工程表等を確認しながら委託先の責任者と協議し随時指導を行った。	B	
			3	食物アレルギー対応の推進	給食センター	給食センターが食物アレルギー対応している児童・生徒の保護者、教職員等を対象とした研修会を開催し、関係者が共通認識を持って対応にあたることを確認した。	A	

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価
倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進	8 地域力を育む社会教育の推進～現代的及びライフステージに応じた学習機会の充実～	1 成人式（成人式実行委員会、中学生ボランティアによる運営）	生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き妨害行為への対策を講じ、何事もなく式を終えることができた。 ・実行委員が主体となって成人式実行委員会企画の準備・運営に取り組み、成人式を成功させた。 ・実行委員会に身近な存在であるOB・OGに参加してもらい、経験談や助言を受けて、より充実した企画内容の検討や円滑な準備に繋がった。また当日も舞台袖で声をかけてもらい、緊張がほぐれ、落ち着いて企画進行をすることができた。 ・多くの中高校生にボランティアとして参加してもらった。 実行委員 15人 実行委員OBOG（新採職員含） 3人 中学生 31人 高校生 16人	B	B	<p>○昨年に引き続き成人式の警備体制の充実を図り、無事に成人式を終えることができた。この実績を踏まえ、今後の警備体制について検討していく。実行委員としての経験が後輩の支援に繋がるよう、また社会人になってからも助け合える仲間作りに繋がるよう、成人式を核にした若者の新たな世代を繋ぐ機会となるよう引き続き事業を展開していきたい。</p>
		2 各種講座開設 専門・実践的な高等教育を受ける機会確保（鳥取看護大学・短期大学・倉吉市連携講座、生涯学習講座、鳥取大学連携講座、人材銀行、女性連絡会）	生涯学習	<p>【看大・鳥短公開講座】「現代社会を生きる知恵」をテーマに、地域に根ざした文化や生活等に焦点を当てた講座を実施。</p> <p>【生涯学習講座】「ことばの魅力に迫る」と題し、全5回講座・市外研修を実施。図書館と連携して展示を行い新規受講者獲得に繋がった。県と連携して講座を実施。100名を超える参加があった。高校生の参加もあり様々な年代、地域の方との交流の機会となった。</p> <p>【人材銀行】新規登録者のHP掲載や子ども会総会等でPRを行い活用が拡大した。</p> <p>【女性教育】各中学校区での活動及び全市における研修を行い、学びを通じた参加者の交流も図ることができた。</p>	A		

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価
倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進	9 支えあう人づくり・輝くまちづくり～絆づくりや地域のコミュニティ形成に向けた学習活動の推進～	1 青少年の健全育成と青少年団体の育成支援（子ども会・ものづくり道場・伝統文化体験教室）	生涯学習	<p>【子ども会】倉吉市子連が実施する研修会を実施し、県子連等が実施する研修会に派遣を行い、学びの機会を設けた。3月の研修会が中止となった。</p> <p>【中部地区社会教育担当者会】中部地区の市町共同で少女少女のつどいを実施。今年度初めてハイスクールフォーラムも共催で実施した。</p> <p>【ハイスクールフォーラム】今年度は中部市町共催で実施。中部に取組みを広げた。各高校の特色ある活動や取組みの発表と掲示、及び地域住民や中学生との意見交換を行った。</p>	B		<p>○「子ども主体による子ども会運営」とする子ども会のあり方等を研修会で取り上げ、子ども会の活動支援に繋がる事業が実施できた。中学生の加入率の低下を受け、秋の研修で進学後も子ども会活動に関わることを内容に盛り込んだ。子ども会やレクリエーションについて学ぶ場となっていたため、次年度早めの研修の実施を検討する必要がある。</p> <p>○異なる地域や学校の青少年が、ともに自然の中で体験活動を行うことで、仲間作りや自然の大切さを学んだ。</p> <p>○地域住民や中学生に、高校生の活動や取組み、社会や地域に対する高校生の考えを知ってもらい、今後の高校生と地域との連携につながる取組みを中部に広げることができた。</p>
		2 放課後子ども教室推進事業（総合プラン連携型、子どもいきいきプラン、通学合宿）	生涯学習	運営委員会を2回実施。事業内容と進捗を確認した。各地区における放課後子ども教室については、市内で14教室、年間を通して実施した。	B	B	○放課後子ども教室を通して、子どもの居場所づくりと、子どもと地域住民との交流を促すことができた。運営委員会では、各地区の取組みについて情報共有を行った。
		3 倉吉地区少年補導センター事業への参画、青少年育成協議会との連携	生涯学習	<p>【倉吉地区少年補導センター】倉吉地区少年補導センターの事業に関する協議や情報交換を行なう運営委員会を年6回、予算や事業計画について協議する評議員会を年2回実施した。また、定期的な街頭補導に加え、青少年関係者の研修会の参加や啓発に努めた。</p> <p>【倉吉市青少年育成協議会】あいさつ運動や研修会への参加に加え、啓発活動に取り組んだ。</p>	B		○補導対象事業や街頭補導を実施した。非行や犯罪被害の低年齢化が進む中、様々なキャンペーン活動等を通して啓発を行った。

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価
倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進	10 公民館活動の推進 ～学習の質向上と学習成果の活用～	1 学習の質向上と学習成果の活用（公民館と地域振興の連携）	生涯学習	館長研修会や主事研修会を年間計画に基づき実施した。公民館職員としての質の向上を図った。主事研修会の中で、研究部会を3回実施し、各部会でテーマを設定し、主体的に課題解決につながるよう取り組んだ。各部会での研究成果を全体で共有した。公民館主事2名が社会教育主事講習を受講した。市公連・館長会と連携し、主に公民館事業の充実・課題解決等について検討・議論した。	A	A	○研修会の中で公民館職員で課題を共有して話し合ったり、お互いに情報交換をすることにより、公民館同士の連携が生まれたり、全体として公民館の課題解決や事業の充実につながった。 ○公民館優良表彰などで本市の地区公民館が全国で高い評価を受けているのは、研究指定事業において、住民が企画や運営に関わり、3年間をかけて地域課題解決に向けた事業を展開できていることが大きな要因である。 ○公民館報のHP掲載を続け、公民館情報を広く発信している。 ○地区公民館が現在担っている機能の所管課が集い検討し、「地域のあり方に関する方針（案）」を策定した。そして館長会、主事会等へ説明をし意見を伺った。 ○安全で安心な公民館施設の維持管理に努めた。早急に対応が必要な課題について専門部局と確認・協議を実施し、公民館と連携しつつ業務を遂行した。
		2 人づくり・地域づくりの推進（公民館研究指定事業）	生涯学習	【公民館研究指定事業】全地区公民館において、地域課題解決につながることを目的にそれぞれ青少年学級、地域づくり講座、健康づくり講座等テーマを設定して学習機会の提供を行う講座を実施した。住民が企画や運営に関わる仕掛けをし、地域で主体的に取り組んだ。優良公民館表彰において上灘公民館が、昨年度の上北条公民館に続き全国で5館の優秀館に選ばれた。研究指定事業で実施した地域づくり講座「うわなだ未来塾」における子どもを核として地域と学校が連携して取り組み、地域活性化にもつながったことが高く評価された。	A		
		3 公民館のあり方検討	生涯学習	行財政改革のうち、施設のあり方に係る検討について、関係部署が集い数回にわたって協議を進め、「地域のあり方に関する方針（案）」を策定した。関係者へ説明し、意見を求めた。	B		
		4 安全安心な施設整備空調整備（成徳、明倫、北谷）	生涯学習	大規模な修繕はなかったが、利用者の安心で安全な利用を促進するため、老朽化等の課題に対しアイデアを出し工夫しながら対応した。	B		

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価
倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進	11 体育・スポーツの振興	1 スポーツ推進に関する重要事項の調査審議	生涯学習	スポーツ活動については各団体の活動実態の把握ができておらず、また活動中のケガや故障が生じている実態があるため、2回の開催を予定していたが、1回の開催となった。	C		○子どものスポーツ活動から実態調査の準備を進めており4月から開始を計画しているため、進捗及び調査結果を基に事業の方向性等再検討が必要となる。このため年2回の開催の必要がある。
		2 スポーツ活動機会の充実(地域スポーツの振興)	生涯学習	<p>【各種大会等】 計画どおり実施できた。ただし、来年度はオリンピック開催に伴い事業計画等日程調整が必要となる。</p> <p>【コンベンション】 フランス代表合宿に、県及び地域づくり支援課からの依頼を受け協力した。フランスからは高評価を得た。</p> <p>【スポーツ教室】 各地域での教室は定着し各会場ともに参加人数は増加傾向。</p> <p>【研修会】 講師の日程調整ができず、予定した5回のうち2回の開催となった。</p> <p>【指定管理教室】 温水プールによる教室は、利用者の要望を取り入れ、新たな教室を開設した。教室運営を通じて健康づくりを図った。 体育施設については従来の教室及び鉄棒教室等スポット事業を増設し子どものスポーツ参加のきっかけづくりを推進した。</p> <p>【BG教室】 今年度も体育施設指定管理者と共催で実施した。</p> <p>【全国大会補助】 3月予定されていた大会がコロナウイルスの関係により中止されたが、前度実績23件に対し今年度は26件と3件上回った。</p> <p>【桜相撲補助】 大会は計画どおり実施できたが、県の監査があったことにより、決算が遅れ、実績報告の提出が遅れた。</p> <p>【日本海駅伝補助】 今年度132チームが出場し地域の賑わい創出の一助となっている。補助金も計画どおり執行できている。</p> <p>【学校開放】 今年度も30,000人を超える利用者があるが、団体における活動が広域化しており、利用実態と規則が合わなくなっている。 また、破損等の事故も増加傾向にあり今年度から報告書提出を求め確認している。</p> <p>【温水プール指定管理者選定委員会】 2回の委員会を開催し指定管理候補者を選定。指定管理料が増額の提案となったが、候補者と協議・精査し約2,000千円の減となった。</p> <p>【海洋センター指定管理協議】 体育施設指定管理者ミズノと再協議し条件を整理し令和3年度の導入を目指している。</p>	B	B	<p>○各種大会・イベント 各主催・協力団体との連携・調整を図り、女子駅伝・日本海駅伝では初めて報道車両が競技中の選手への接近が許可されるなど、安全性を担保し効率的・効果的に事業実施することが可能となった。 来年度以降はさらに安全性を高める努力とスポーツ情報を効果的に発信することを計画する。 スポーツコンベンションは、個々の事業を一過性のものとするのではなく、「スポーツ振興を通じて地域の活性化を図る」の視点をもって、ソフト事業の具体的な企画・立案を関係団体と進めていくことが重要と考えている。 なお、令和2年度はコロナウイルスの影響を考慮した事業計画となる。</p> <p>○教室・研修 教室事業は、定着も図られ安定した参加人数があるが、横ばいの状態。このため、現在の利用層だけでなく新たな利用者を獲得するため、幼児から高齢者まで視点を変えた事業に取り組む必要がある。</p> <p>○補助金 全国大会の補助金ニーズは高く、例年20件以上の申請があり、保護者負担の軽減により全国大会へ参加しやすい環境が整ったことで多くの優秀な選手の育成・強化に貢献している。ただ、申請手続きが分かり難い等、制度上の問題もあるため、来年度以降、要項の改正等を検討する必要がある。</p> <p>日本海駅伝については、要項の目的と現状の差異があるため、女子駅伝と合わせてあり方を検討する必要がある。</p> <p>○指定管理事業 最終目標である指定管理者による自主運営・自主採算を目指すため利用率の向上を図る事業が必要であり、体育施設及び温水プール共に次期5ヵ年での利用率向上を図る必要がある。</p> <p>○選定委員会 指定管理料の算出は事業者で違うだけでなく、温水プール等の水を扱う施設はリスクが高く高額になりやすい傾向にある。現状の利用率では利用料収入の大幅な増加は見込めず、また施設の老朽化に伴う維持管理費が高騰することが想定される。今後の指定管理者制度については十分な検討が必要と考えている。</p>

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価
倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進	11 体育・スポーツの振興	3 スポーツ指導者の養成・団体の育成	生涯学習	<p>体育協会事業については、概ね例年どおり実施できたが、スポーツ団体の情報発信は実施できなかった。スポーツ表彰は昨年度実績を超える参加者数となり、競技スポーツ活性化の一助となっている。</p> <p>講習・実技研修及びニュースポーツ交流会の企画運営について、スポーツ推進委員が主となって運営できるよう少しずつ見直してきた。若い委員が選出され、積極的に研修等に参加しているが、その活動内容の認知度は低いため、更なる事業改編が課題となる。</p> <p>各競技の交流大会は計画どおり実施できたが、少年団全体での交流大会は実施できなかった。各競技とも少年団以外の大会が多く、なかなか調整できないことが課題である。来年度から指導者制度の改革もあり、今後の指導者確保・育成が課題となる。</p>	B	B	<p>○計画していた各種団体の実態調査、情報発信は進んでおらず、昨年どおりの事業実施となった。このため来年度も、事業の見直し、再編できるように各事業の実態及びニーズ確認を図る。まずは、本審議会終了後にスポーツ少年団を対象とした調査を実施し、子どものスポーツ活動の実態を把握。子ども達が安全・安心にスポーツに取り組める環境の創出と活動を支える指導者の確保及び資質向上を図る方向性を検討する。また、調査に合わせてニーズを把握し、現在の協会活動内容と比較検討することで、事業の方向性、各団体への支援、指導者確保等スポーツ推進に繋がる各事業の整理統合、新設を行うことを計画する。</p> <p>○ニュースポーツ交流会と地域スポーツ教室の連携を図ったことで参加者は増加しスポーツ活動参加へのきっかけとなっているが、地域におけるスポーツ推進委員の認知度は低く、各委員が職務として主体的に取り組める事業再編、地域での活動内容の具体化を図り、地域での活動充実を推進する必要がある。</p>
		4 体育施設の整備充実	生涯学習	<p>競技団体との協議は、団体の協力もあり概ね計画どおり設計を完了し来年度施工する。また、財源についても、国の補正予算でラグビー場補助事業が追加・決定され当該事業が該当となり、事業費の1/3が国費が補助対象となる。</p> <p>スコアボードの電光掲示化によって長年の懸案だった改修が終了した。今後は利用者の利便性の向上に繋がることが期待される。なお、スコアボードの改修を機に高校野球大会の開催が決定している。</p> <p>利用者の利便性向上が図られ、利用促進に繋がった。</p> <p>利用者が少ない冬季に修繕を実施し、利用者の安全確保に繋がった。</p> <p>体育施設利用時の事故防止について、指定管理者と協議・現地確認等を行い必要に応じて改修するとともに施設利用に関する規則を各施設の利用者に周知徹底を図った。</p> <p>スポーツセンター体育館の照明安定器から発煙したため、急遽ではあるが照明器具のLED化を実施した。</p> <p>庭球場は、昭和48年に竣工し、昭和59年以降は改修していないため、運営面、安全面において支障をきたしていた。社会資本整備交付金を活用し、クレーコートを人工芝へ改修することにより利用促進に繋がることが期待される。なお、コート of 整備内容については、競技団体と協議し設計に反映している。</p>	B		

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価		
倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進	12	文化財の保存、活用、伝承	1	伝建地区の災害復旧・保護（修理・修景事業）	文化財	<ul style="list-style-type: none"> 被災した242棟に対し181棟（74.8%）まで工事完了。災害復旧工事を継続していく方針を国・県と確認。 特定物件2件追加、錯誤による3件解除して修理困難な案件の修理を進めた。「伝建保存活用計画」の見直しが必要であるが、策定に至らなかった。 伝建地区内にゲストハウス（観光交流課担当）が完成した。また、地区内に市営住宅（建築住宅課担当）が可能かどうかの検討に協力した。小規模な修理は、街なみ環境整備事業（管理計画課担当）で対応した。建築基準法緩和条例の改正手続きを建築住宅課と連携して進めることができた。 県中部地震で休止していた倉吉町並み保存会による防災訓練を11月にすることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特定物件の追加・削除をしながら、保存修理・災害復旧事業を進めたが、職人・資材不足、所有者の資金繰り等により修理目標を達成することができなかった。 非特定物件が解体され空地化を食い止めることができず、保存活用計画の見直しが急がれる。 関係部局と協力しながら、伝建地区の事業を進めることができた。 	
			2	指定文化財の整備・保護	文化財	<ul style="list-style-type: none"> 「大御堂廃寺跡保存活用計画」原案を公表してパブコメを募集し修正を加え、文化庁認定の申請を行った。 県指定候補の大御堂廃寺跡の出土遺物について、県との調査を7回実施。昭和48・49年発掘の松ヶ坪遺跡報告書作成が必要との指導を受けた。 小川氏庭園「南山荘」の修理中の一般公開では、文化財修理技術・工法の説明を行い、啓発を図った。 「小川家住宅保存活用計画」の改正を行い、保存範囲・活用方法を再検討し、将来の設計業務へ繋げることとなった。 倉吉文化財協会の協力を得て、年間内容を「古代寺院」とし、大御堂廃寺跡の各事業に役立てることができた。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 大御堂廃寺跡保存活用計画を策定し、文化庁認定の手続きをすることができた。 小川氏庭園（環翠園）の調査をしながら修理を進めることができた。「南山荘」の修理中の一般公開で、文化財修理技術・工法の説明を行い、啓発を図ることができた。限られた期間の中で、「小川家住宅保存活用計画」の改正を行い、活用の設計業務へ繋げることができた。
			3	埋蔵文化財の発掘調査	文化財	<ul style="list-style-type: none"> 志津の塚ノ山古墳の調査により、周溝を含めて約63m規模で当地方を代表する古墳であることを確認した。 駄経寺町2丁目地区の調査で大御堂廃寺の築地塀が発見され、寺域を推定する史料を得ることができた。 両長谷遺跡は弥生時代後期の集落跡で、遺構の密度が予想を超え、調査期間を延長して行った。 中尾遺跡は古墳12基の調査となり、予定の期間では終了できなかった。 試掘調査は当初計画3件に対して追加5件の計8件について、開発者と調整しながら対応できた。 	A		<ul style="list-style-type: none"> 保存のための確認調査である塚ノ山古墳・大御堂廃寺跡の発掘、記録保存のための本調査である両長谷遺跡・中尾遺跡の発掘について、それぞれ成果をあげることができた。

項目	重点施策	主な施策	担当課	実績	実績評価	施策評価	最終評価	
倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進	13	親しみ学ぶ機会の提供できる博物館	1	郷土の文化芸術、伝統文化を学べる場の提供 博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり進行した。 ・金澤翔子展では会期中に数多くの関連イベントを開催した。 ・所蔵品展では、当初計画の展示替えを実施した。 ・土天神の館外展示は、従来の倉吉淀屋の他に円形劇場でも実施した。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ○特別展「金澤翔子展」にはじまり、恒例の市展・創作文華展の開催、県展等を計画どおり実施し文化芸術に親しむ場を提供出来た。各部門の所蔵品を季節や作家の生没の節目に併せて時機を捉えて取り組んだ。 ○博物館HPをリニューアルしたことで、情報を捉えやすいと市民の方に好評であった。
			2	トリエンナーレ美術賞(菅橋彦大賞)作家選考 博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・指名作家の選考等、当初の計画どおり進行した。 ・京都文化博物館の内部審査で高い評価を得て、経費の削減につながった。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ○令和2年開催予定の第10回菅橋彦大賞展の準備を滞りなく進めた。 ○指名作家37名全員の出品承諾を得ることができ、菅橋彦大賞の認知度が上がってきたものと思われる。
			3	地域の文化資源の活用 博物館	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館講座のうち3月開催の2回を中止とした。 ・倉吉出身の大江磐代君の書状などを展示した天皇陛下即位記念展を実施した。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ○コロナウイルス感染拡散防止対策として2回の博物館講座を中止した。2回以外の博物館講座とウォッチングは計画どおり実施し、地域の文化資源を活用して取り組んだ。 ○当初計画になかった天皇陛下即位記念展に取り組んだ。皇室と倉吉とのゆかりを光格天皇の生母大江磐代君を取り上げ広く市民に周知できた。今後も時機を捉え、大江磐代君の顕彰に取り組みたい。
倉吉を担う人づくり・まちづくりの推進	14	豊かな心を育む図書館づくりの推進	1	図書館資料の収集提供、英語学習資料・中高生等の利用促進 図書館	<ul style="list-style-type: none"> 市役所他課、地区公民館、県、県立図、民間団体などと連携し、話題になっている事柄や時期を得たテーマの展示を工夫しながら数多く実施し利用者の関心を高めた。 英語学習資料の収集を行い新しく英語学習コーナーを設置した。中・高校生向資料の資料収集も進め魅力ある書架づくりを行った。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ○県市をはじめ多くの機関と連携し、話題に富む多くの展示を実施した。読書意欲高める効果もあり、来年度も継続して行いたい。 ○ニーズが高い英語学習資料、更新が十分でない中高生向資料も継続して購入したい。
			2	読書活動の推進 図書館	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での読み聞かせの普及を目的とする好評のブックスタートは今年もボランティア、関係課の協力で円滑に実施できた。開館30周年を記念し、絵本作家によるおはなし会、ワークショップ、講演などを行い多くの市民に喜んでいただくとともに、図書館活動をPRした。また引き続き小学校・中学校と連携してワークショップ・講演を実施し、子どもたちの関心を高め想像力を刺激し読書意欲を高めることができた。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ○読み聞かせの普及に効果があるブックスタートや市内学校と連携した絵本作家講演やワークショップは好評で、来年度以降も継続して実施し読書活動の啓発に役立てたい。
			3	山上憶良短歌賞全国公募・文芸活動の推進 図書館	<ul style="list-style-type: none"> 山上憶良短歌賞は応募数が4,250首と昨年度を大きく下回った。教員の働き方改革、県の類似事業の新設などによるものと思われるが、一方、一般は増加し47都道府県・海外から応募があり、まちのイメージアップに寄与し、倉吉と山上憶良の結びつきを広くPRすることができた。 	B		<ul style="list-style-type: none"> ○山上憶良短歌募集事業は小中高校へのPR方法の一層の工夫が必要である。教員の働き方という学校現場の問題が応募数減少の理由とすると回復は簡単ではないが、周知期間を長くするなど対策を検討したい。一般は短歌団体を通じた広報を継続し、より多くの人に当該事業のことを知ってもらい、応募数の増加に結びつけたい。

6 教育委員会の主な動向

(1) 教育長・教育委員の在任状況

(R 2. 3. 31 現在)

職名	氏名	年齢	就任年月日	任期	保護者
教育長	小椋 博幸	61	H30.10.3	R 3.10.2	
教育長職務代理人	福井 真喜代	67	H30.10.8	R 4.10.7	
委員	田民 義和	62	H28.10.5	R 2.10.4	
委員	高橋 義博	57	H30.1.1	R 3.12.31	
委員	西田 江美	45	R 1.10.5	R 5.10.4	○

①委員の異動（市長が任命）

令和元年10月4日をもって仲田優子委員が任期満了によって退任され、同年10月5日付
 けで西田江美委員が任命された。

(2) 教育委員会の会議

(H 31. 4. 1 ~ R 2. 3. 31)

会議名	回数	備考
教育委員会	13	議案26件、協議事項13件、報告事項200件

(3) 教育委員会の開催状況

4月24日第5回定例会

- 議案（1件） 議案第14号 鳥取県中部地区教科用図書採択協議会の倉吉市教育委員会
 が選出する採択協議会委員の承認について
- 協議事項（2件） 平成30年度倉吉市の重点施策の実績及び評価について
 平成31年度倉吉市の重点施策に基づく実施計画について
- 報告事項（13件） 教育長報告ほか12件

5月29日第6回定例会

- 議案（1件） 議案第15号 倉吉市教育行政の点検及び評価について
- 報告事項（14件） 教育長報告ほか13件

6月27日第7回定例会

- 報告事項（17件） 教育長報告ほか16件

7月30日第8回定例会

- 議案（2件） 議案第16号 倉吉市打吹玉川伝統的建造物群保存地区保存計画の変更
 について
- 議案第17号 令和2年度から使用する小学校教科用図書及び中学校教科
 用図書（「特別の教科道徳」を除く）の採択について
- 報告事項（17件） 教育長報告ほか16件

8月22日第9回定例会

議案（ 1件） 議案第18号 令和元年度教育費補正予算について
報告事項（16件） 教育長報告ほか15件

9月27日第10回定例会

協議事項（ 2件） 土曜授業について
大御堂廃寺跡保存活用計画（中間まとめ）について
報告事項（16件） 教育長報告ほか15件

10月25日第11回定例会

協議事項（ 2件） 令和元年度倉吉市教育委員会重点施策に基づく実施計画の進捗状況につ
いて
史跡大御堂廃寺跡保存活用計画について
報告事項（19件） 教育長報告ほか22件

11月28日第12回定例会

議案（ 4件） 議案第19号 令和元年度教育費補正予算について
議案第20号 倉吉市公民館の指定管理者の指定について
議案第21号 公民館長の任命について
議案第22号 倉吉市温水プールの指定管理者の指定について
協議事項（ 1件） 第3次行財政集中改革プランについて(地域のあり方にかかる方針(案))
報告事項（25件） 教育長報告ほか24件

12月16日第13回定例会

議案（ 1件） 議案第23号 伝統的建造物群保存地区保存計画の変更（特定物件の追
加と削除）
報告事項（12件） 教育長報告ほか11件

1月30日第1回定例会

議案（ 5件） 議案第1号 令和元年度教育費補正予算について
議案第2号 令和2年度教育委員会主要事業について
議案第3号 令和2年度教育費当初予算について
議案第4号 倉吉市立小学校及び中学校設置条例の一部改正について
議案第5号 倉吉市伝統的建造物群保存事業補助金交付要綱の一部改
正について
協議事項（ 4件） 令和元年度倉吉市教育委員会表彰について
令和2年度倉吉市立小中学校における夏季休業中の学校閉庁について
令和元年度末倉吉市学校教職員人事異動方針について
土曜授業の実施について
報告事項（23件） 教育長報告ほか22件

2月20日第2回定例会

議案（ 3件） 議案第6号 倉吉市就学指導委員会条例の一部改正について
議案第7号 市立中学校教職員の処分について

議案第8号 職員のサービスの宣誓に関する条例及び倉吉市立学校教職員のサービスの宣誓に関する条例の一部改正について

協議事項（1件） 令和2年度倉吉市の教育方針と重点施策（案）について

報告事項（13件） 教育長報告ほか15件

3月11日第3回臨時会

議案（1件） 議案第9号 令和元年度末倉吉市学校教職員人事異動について

報告事項（1件） 報告1件

3月23日第4回定例会

議案（7件） 議案第10号 令和元年度教育費補正予算について

議案第11号 令和2年度倉吉市の教育方針と重点施策について

議案第12号 学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について

議案第13号 地域学校委員会委員の任命について

議案第14号 倉吉市教育委員会事務局等組織規則の一部改正について

議案第15号 倉吉市立小中学校の教育職員の業務量等の管理に関する規則の制定について

議案第16号 倉吉市高校生等通学費助成事業補助金交付要綱の制定について

協議事項（1件） 第3期教育振興基本計画骨子（施策体系図）（案）について

報告事項（14件） 教育長報告ほか13件

(4) 総合教育会議の開催状況

5月29日第1回総合教育会議

報告事項（1件） 平成30年度倉吉市教育行政の点検及び評価について

協議事項（3件） 平成31年度倉吉市教育委員会の重点施策に基づく実施計画について
中部地区の高校進学問題について

いじめ・不登校問題について

12月16日第2回総合教育会議

協議事項（4件） 新学習指導要領の全面实施（小学校）体制及び外国語教育について
いじめ・不登校問題について

ICT教育について

図書館の活動について

(5) 計画訪問・意見交換会・諸行事への参加

① 学校計画訪問

R1. 7. 2	西中学校計画訪問
R1. 7. 16	久米中学校計画訪問
R1. 10. 2	社小学校計画訪問
R1. 10. 9	西郷小学校計画訪問
R1. 10. 30	高城小学校計画訪問

R1. 11. 7	鴨川中学校計画訪問
R1. 11. 12	河北小学校計画訪問
R1. 11. 21	上小鴨小学校計画訪問
R1. 11. 26	成徳小学校計画訪問

② 意見交換会

R1. 11. 8	倉吉市小学校PTA連合会と教育委員との意見交換会
R1. 11. 22	倉吉市中学校PTA連合会と教育委員との意見交換会

③ 諸行事への出席

R1. 4. 2	転入新教職員宣誓式
R1. 4. 6	特別展「ダウン症の天才書家金澤翔子展」
R1. 4. 9	倉吉市立小中学校入学式
R1. 5. 11	倉吉市小・中学生淀屋サミット
R1. 5. 11	倉吉市小学校 PTA 連合会総会、倉吉市中学校・養護学校 PTA 連合会総会
R1. 5. 20	東伯地区・倉吉市教育委員会合同研修会
R1. 5. 20	倉吉市美術展覧会開会式
R1. 5. 20	倉吉市美術展覧会表彰式
R1. 6. 12～ R1. 6. 13	小中学校一斉公開
R1. 6. 16	倉吉市美術展覧会表彰式
R1. 7. 12	鳥取県市町村教育委員会研究協議会 定期総会並びに研究大会
R1. 10. 5	南部忠平杯第 34 回くらよし女子駅伝・第 39 回日本海駅伝競走大会開会式
R1. 10. 22	天皇陛下即位記念「光格天皇の事績とその生母 大江磐代君」展 開会式
R1. 11. 5～ R1. 11. 6	市町村教育委員会研究協議会
R1. 12. 13	倉吉市公民館研究大会
R1. 12. 22	倉吉ハイスクールフォーラム 2019
R2. 1. 3	令和 2 年倉吉市成人式
R2. 1. 27	学校給食週間事業児童生徒作品展表彰式
R2. 2. 17	菜の花プロジェクト報告会
R2. 2. 13	打吹公園だんご教育奨励賞・倉吉市教育委員会表彰 表彰式
R2. 2. 23	倉吉市体育協会スポーツ表彰式、日本海新聞ふるさと大賞表彰式
R2. 2. 23	第 63 回倉吉文芸表彰式
R2. 3. 10	中学校卒業式
R2. 3. 19	小学校卒業式
R2. 3. 22	第 43 回倉吉市創作文華展表彰式